

巷にあふれる情報をいかに効率よく取り出し、
新しい知識として蓄積させてゆくか…

図書館司書の
テキストに
最適

図書館で使える



9784816922787

情報源と情報サービス

木本 幸子 著 A5・210頁 定価(本体2,200円+税) ISBN978-4-8169-2278-7 2010年9月刊行

情報活用のための解説書

- 情報提供の場である図書館に必要な情報活用の知識と実践方法を解説したテキストです。
- 司書課程新カリキュラム科目「図書館サービス」「情報サービス」「図書館資料」「専門資料」などに対応。
- “情報源の種類とその特性”、“図書館サービスの考え方”、“情報の役割”、“活用のための考え方とその仕組み”について理解することができます。

図表や事例が豊富でわかりやすい

- 豊富な図表や専門用語には、具体的な事例で、司書の知識がなくてもわかりやすく学ぶことができます。司書課程で学ぶ学生だけでなく、現在図書館で働いている人、図書館利用者にもおすすめします。
- テキスト内容の理解をより深める手助けとなる、記述式を主とした演習問題付き。

著者プロフィール 木本 幸子 (きもと・さちこ)

慶応義塾大学文学部図書館学科(現図書館・情報学専攻)卒業。
慶応義塾大学北里記念医学図書館(現信濃町メディアセンター)、国際医学情報センター、
日本軽金属(株)、(株)紀伊國屋書店を経て、平成21年まで大妻女子大学家政学部(教授)。
現在、日本大学ほか非常勤講師。

【目次】

はじめに

第1章 情報サービス
直接サービス/間接サービス/図書館の種類と利用者

第2章 情報源
情報源の種類
図書/逐次刊行物/地図/楽譜/学位論文/テクニカル・レポート/学会情報/規格情報/特許情報/行政に関する情報源/法令・判例に関する情報源/地域に関する情報源/美術に関する情報源
灰色文献とは
二次情報源
案内指示的な案内型の二次情報源の種類
書誌/目録/索引/抄録
案内指示的な案内型二次情報源のまとめ
事実解說的な回答型の二次情報源の種類

第3章 学問分野と情報特性
人文科学分野および社会科学分野/自然科学分野および工学・技術分野/学問分野と情報特性の比較/学問分野の最近の特徴

第4章 情報を見つけやすくするためには～情報の加工～
索引を作る/情報加工の手順/抄録の作り方

第5章 データベース/Web情報と検索
データベース/検索/インターネット情報源

第6章 情報の利用 ～著作権と参照について～
著作物と著作権/著作物と参照について

第7章 情報メディア
記録メディア/電子情報源

付 録 (図書館法/学校図書館法/本の名称)
図一覧・表一覧
索引

2017.2

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	図書館で使える 情報源と情報サービス	冊
		定価(本体2,200円+税) ISBN978-4-8169-2278-7	
	■お名前		

第4章

情報を見つけやすくするためには ～情報の加工～

情報要求が生じた時に、必要とするデータや情報に即座に辿り着くのは難しい。第2章で示したように、多種多様の一次情報源がある。どこに、どのようなデータや情報源があるかを、効率よくしかも的確に見つけるための手段があれば便利である。

情報を見つけやすくする工夫には大きく2つの方法がある。1つは索引を作ること。もう1つは、分類することである。索引は、"ことば"から探す時、"分類"は、まとめてそのテーマの内容を探すときに役に立つ。本章では、索引をつくること、分類することについて、さらに情報加工の手順について解説する。

1. 索引を作る

1) 索引の役割

情報源の内容を探す時の手がかりが索引である。インデクス (index) という。索引を作ることをインデクシング (indexing) という。その手順および作業のことである。

中村幸雄¹⁾は"インデクスとは、元来「指標」の意味で、人差し指のことである。指し示すには、示すための物あるいは記号と、指し示される「対象」とがいる"と述べている。このインデクスは「索引」のことで、探し出す、引き出すという役割がある。

索引の役割は、その事物の存在や状態を示し、原文の「代わり」に

なって、その内容のあらましを示す。例えば図書の巻末索引は、図書の内容を探せるように、本文中の字句や事項を一定の順序に配列して作られる最も基本的な索引である。

「索引」と「検索」は、表裏一体の関係にあり、検索は、索引されたものの中から、情報要求に該当する指標を引き出す作業である。

インデクシングは、主題要素を語句や記号に置き換える作業をいう。置き換えられた語句や記号は捜しやすいように一定の順序に配列する。

検索 (または探索) の結果は、「あった」か「なかった」かの2通りである。「あった」という状態は、印刷版を使用した探索では、検索語として探していた語句が「見つかった」ことであり、データベース検索では、検索語として使用した語句が「ヒットした」ので、その結果が画面に表示された状態である。この場合、本当に情報やデータがあった場合と、言葉としては存在したが、内容が求めるものではなかった場合がある。後者は不要なもので「ノイズ」(検索ノイズ)である。また「なかった」という状態は、印刷版を使用した探索では、検索語として探していた語句が「見つからなかった」ことであり、データベース検索では、検索語として使用した語句が「ヒットしなかった」ので、その結果が画面に表示されなかった状態である。この場合、本当に情報やデータがなかった場合と、必要なものを見つけられなかった場合

検索結果	あった	なかった
状況	必要情報が本当に「有」	必要情報が本当に「無」
	ノイズ 言葉としては存在、 しかし不要情報	モレ 必要情報を見つけられなかった 原因①検索技術が未熟 原因②索引手法の理解不足

図4-1 検索の結果

第4章 情報を見つけやすくする 語句による

私達は、思考や概念を言葉に置き換えて他に伝えている。言葉によってその内容(思考や概念)を知ることができ、認識を共有することが容易となる。概念とは、"事物の本質をとらえる思考"の単位のことである。すべての言葉には対応する概念が少なくとも1つ存在する。言葉にできない思考・概念は、伝達することが困難である³⁾。言葉は概念・思考の表現であるから、ある言葉を聞いた時、形状や状況を想像できる。例えば、「三日天下」という言葉を聞けば、「盛衰」「短期」「無常」などが思い浮かぶ。

言葉の種類には、同義語あるいは類義語 (以下、同義語) と多義語がある。前者はある概念を表現するのにいくつかの言葉で表現できるもの、後者は同じ言葉がいくつかの意味を持つものである。両者の違いは図4-4のようになる。

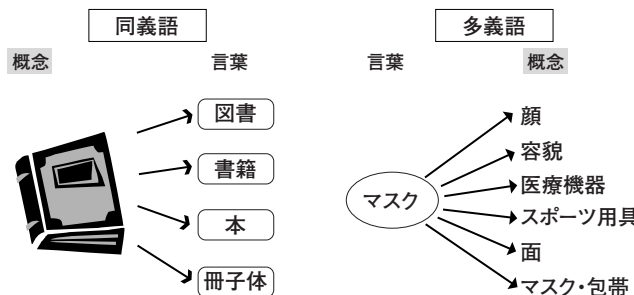


図4-4 同義語と多義語のちがい
(多義語の出典:日本語大シソーラス)

図表や事例が
豊富なので
理解しやすい